



2024年
10月2日
No.A24-06

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

中東調査会月間活動誌 (2024年9月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) 日本・トルコ外交関係樹立 100周年記念セミナー

・9月3日(火)、デルヤ・オルス アタテュルク文化・言語・歴史・高等研究機構長、ユクセル・オズゲン トルコ歴史協会会長、コルクット・ギュンゲン 駐日トルコ共和国大使、上村司 日本国政府代表/中東和平問題担当特使、アリ・メルトハン・デュンダル アンカラ大学アジア太平洋研究センター(APAM)初代センター長、キュチュク・アリ・アケミク 福岡大学大学院商学研究科教授、アフメト・クルンチ アタテュルク文化・言語・歴史・高等研究機構副機構長、小松久男 東京大学名誉教授/東洋文庫研究員、三沢伸生 東洋大学社会学部国際社会学科教授、間寧 アジア経済研究所中東研究グループ主任研究員「最近の中東地域と分断が進む世界-日本とトルコの進むべき道-」(於:日本記者クラブ「ホール」)



<要旨>

本記念セミナーは、中東調査会とアタテュルク文化・言語・歴史・高等研究機構トルコ歴史協会によって共催され、外務省と駐日トルコ共和国大使館からご後援いただいた。中東調査会法人・個人会員を中心とする中東地域と関わりのある方々約150名が出席した。

冒頭の来賓挨拶の後、上村司日本国政府代表・中東和平問題担当特使より「日本とトルコ、これからの百年」と題する基調講演をいただいた。パネル・ディスカッションでは、二村伸 NHK 専門解説委員のモデレーターによる進行のもと、パネリスト6名による討論が行われた。

今回の記念セミナーは、日本・トルコ外交関係樹立100周年に当たり、ご登壇の皆様の間で両国関係の過去、現在、未来について多角的に考えるとともに、参加者との間で活発な意見交換を行う貴重な機会となった。

(2) トップ・ミーティング

・9月3日(火)、竹内 純子 国際環境経済研究所理事・主席研究員、東北大学特任教授
『電力崩壊』で伝えたかったこと—日本のエネルギーの課題と展望(於：オクラ東京)



<要旨>

日本のエネルギー政策の現状と展望につき、気候変動政策との関連性や国内の電気事業における課題とその要因、また日本の総裁選など

も踏まえつつ、説明がなされた。

(3) 中東情勢オンライン講演会

・9月24日(火)、中島 洋一 在パレスチナ日本政府代表事務所所長兼パレスチナ関係担当大使「ガザ戦争と二国家解決」(Zoom形式)



<要旨>

講師より、パレスチナの現状に関し、西岸及びガザ地区情勢、および停戦・人質解放交渉の動向等も含めて概観した後、ガザ戦争の意味合いについて説明がなされた。その上で、ガザ戦後統治(デアフター)に向けた課題と見通し、そして二国家解決下でのパレスチナ国家の核となるべきパレスチナ自治政府が抱える課題や同政府への支援の重要性が述べられた。質疑では、イスラエルの対応、日本の役割、地域諸国の関与や戦線の拡大等につき質問がなされた。

2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行【会員限定】

- ・2024年9月号(2024年10月2日付)
- 1. イスラエル：イスラエル軍の南レバノン侵攻
- 2. サウジアラビア：対イスラエル関係について閣議で意思統一を図る
- 3. イラク：連合軍の「任務終了」についてイラク、アメリカが合意
- 4. イラン：ペゼシュキヤーン大統領が就任後

初の外遊先イラクを訪問

5. トルコ：エジプトのシーシー大統領が12年ぶりにトルコを訪問
6. リビア：原油輸出の再開に向けた動き
7. アフガニスタン：ドゥストム将軍が亡命政府設立を主張

※内容はホームページをご参照ください。

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/)

(2) 中東かわら版の発行

- No.67「エジプト：シーシー大統領のトルコ訪問、二国間関係の改善へ」（主任研究員 高橋雅英、9月6日）
- No.68「UAE：バラカ原子力発電所4号機の商業運転が開始、原発のフル稼働へ」（主任研究員 高橋雅英、9月6日）
- No.69「レバノン：イスラエルがヒズブッラーの通信端末を一斉爆破」（協力研究員 高岡豊、9月18日）
- No.70「アルジェリア：大統領選挙の最終結果発表、タブーン大統領の再選」（主任研究員 高橋雅英、9月18日）
- No.71「チュニジア：マドゥーリー新内閣の発足」（主任研究員 高橋雅英、9月19日）
- No.72「イラン：レバノンでの通信機器の一斉爆発事件発生を受けた反応」（研究主幹 青木健太、9月20日）
- No.73「レバノン：イスラエルが大規模攻撃を開始」（協力研究員 高岡豊、9月24日）
- No.74「シリア：ムハンマド・ジャラーリー内閣の組閣」（協力研究員 高岡豊、9月25日）
- No.75「イスラエル：「抵抗の枢軸」諸派に対する報復の激化」（研究主幹 高尾賢一郎、9月30日）

(<https://www.meij.or.jp/kawara/>)

(3) イスラーム過激派モニターの発行【会員限定】

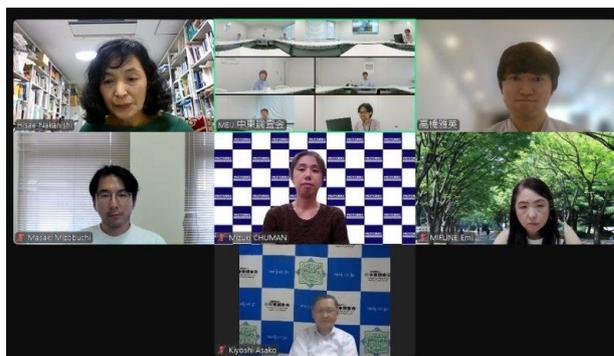
- No.13「SAMIM 撤退による「イスラーム国モザンビーク州」への影響」（9月2日）
- No.14「月刊イスラーム過激派の動向：2024年8月」（9月19日）

※内容はホームページをご参照ください

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/monitor/)

(4) その他の活動

- 8月27日（火）、2024年度外交・安全保障事業「中東ユーラシアにおける日本外交の役割——国家間競争の時代における大国主導の連結性戦略と地域秩序再編の実態解明」事業の第2回研究会を実施した。



- 9月30日（月）、松本太駐イラン特命全権大使が来訪し、浅子副理事長及び研究員らと意見交換した。



3. その他

(1) 要人往来

- 2日、岸田首相は、ヨルダンのアブドゥラー2世国王と電話会談した。
- 23日、上川外相は訪問中のニューヨークで、イランのアラーグチー外相と会談した。
- 23日、上川外相は訪問中のニューヨークで、エジプトのアブドゥルアティー外相、及び、ヨルダンのサファディー副首相兼外務・移民相と会談した。

(2) 外務省人事

- 9月6日(金) 離任
駐アルジェリア大使 河野章
- 9月11日(水) 発令
駐アルジェリア大使 鈴木光太郎
- 9月17日(火) 離任
駐UAE大使 磯俣秋男
- 9月24日(火) 発令
駐UAE大使 岡庭 健

4. 10月の予定

- 10月11日(金)、8:30~10:00、於：オークラ東京プレステージタワー7階「メイプル」、トップ・ミーティング(加茂 具樹 慶應義塾大学総合政策学部長、同教授「中国の統治構造：現状と課題」) *法人会員限定
- 10月11日(金)、14:00~15:30、中東情勢オンライン講演会(鈴木 恵美 中央大学文学部教授「エジプトにとってのガザ戦争」)
- 10月24日(木)、14:00~15:30、於：ホテルグランドアーク半蔵門3F「光の間」、中東情勢シンポジウム(溝渕 正季 明治学院大学法学部准教授、三船 恵美 駒澤大学法学部教授、高尾 賢一郎 中東調査会研究主幹、金子 真夕 中東調査会主任研究員、高橋 雅英 中東調査会主任研究員、佐橋 亮 東京大学東洋文化研究所准教授、青木 健太 中東調査会研究

*会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。

*ログインに必要なIDとパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。

主幹「中東で今何が起きているのか—大國間競争下での地域安全保障の模索—」

※やむを得ない事情により、日時や会場が変更になることもございますのでご了承ください。また、この他にもイベントを開催することもございます。詳細等と併せまして、配信メールやHPをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/event/>)

5. 出版物刊行のご案内

- 9月30日(月)、『中東研究』第551号(2024年度 Vol.II、定価：本体2000円+税)が発行されました。本号は「地域諸国にとってのガザ危機」と題する特集を組み、パレスチナをはじめ、エジプト、ヨルダン、イラク、イラン、トルコ、サウジアラビアにとってガザ危機が持ちえた意味について考えるための論文を掲載しました。このほか、「最近の動向」では、UAEのクリーンエネルギー政策、ターリバーンの女性政策、トルコ2024年統一地方選挙について分析した論文を所収しております。是非お手にとってご覧いただければ幸いです。

※詳細はホームページをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/publication/chutoukenkyu>)